

Si-R370B V35.09 変更内容一覧

□機能追加・改善

No.	項目	追加内容
1	WEB	クリックジャッキング脆弱性問題のワークアラウンド適用。

□修正内容

No.	影響範囲	内容
1	V35.07～V35.08	動的VPNのremote ap dvpn remotenet、templete dvpn localnetおよびdvpn client localnetの各構成定義コマンドにおいて、アドレスレンジに正当なアドレスを指定してもエラーになることがある。
2	V35.07～V35.08	無線LAN管理機能にて情報取得中に、装置が無応答または再起動することがある。
3	V35.07～V35.08	動的VPN接続で通信中にテンプレート定義変更を繰り返すと装置が再起動することがある。
4	V35.07～V35.08	diffコマンドでstartup-configとの比較を行うと、差異がないのに差異が表示されたり、場合によっては装置が再起動することがある。
5	V35.07～V35.08	nodemanager定義が有効な状態でtech-suuportコマンド実行中にCtl-Cにて表示を中断すると、装置が無応答状態となることがある。
6	V35.07～V35.08	動的定義変更により、定義変更していないIPsec定義されたremoteインタフェースの状態が、誤って接続状態(connected状態)に遷移してしまう場合がある。
7	V35.07～V35.08	不正なDNSパケット受信時に、装置が無応答状態となった後に再起動することがある。
8	V35.07～V35.08	毎日1回実行するスケジュールコマンド設定時、スケジュールコマンドが実行しないことがある。(具体的には隔日で実施される)
9	V35.07～V35.08	パケット送受信に関するインタフェース統計情報が正しくカウントされない場合がある。 ・接続先監視利用時にremoteインタフェースの受信パケット数がカウントされない。 ・Ether over IP構成でremoteインタフェースおよびブリッジインタフェースの受信パケット数がカウントされない。
10	V35.07～V35.08	フラグメントされたIPsecパケット(IPv6)受信時にエラーを検出すると、メモリーリークが発生することがある。
11	V35.07～V35.08	WAN側にSIPサーバが居る環境でプライベートLAN側のSIP端末から保留操作をした場合に、それ以降通話ができなくなる(セッション継続、無音)。
12	V35.07～V35.08	IKEv2のInformationalメッセージを受信すると装置無応答となる場合がある。
13	V35.07～V35.08	overlap ap経由のLANインタフェースへの送信パケットがARP未解決パケットとして装置内に保留され続ける場合がある。
14	V35.07～V35.08	TCP接続要求受信後に装置が再起動する場合がある。
15	V35.08	設定条件によって帯域制御機能が正常に動作しないことがある。
16	V35.07～V35.08	IKEv2におけるDELETEペイロード(Responder側)パラメータの設定値が誤っていた。
17	V35.07～V35.08	効率化運用ツールにて構成定義情報更新を行った場合に、運用中の構成定義情報が書き換えられることがある。